

6月は「中干し徹底」強化月間

SDGs⑬

気候変動やその影響を減らすための具体的な対策を考え、今すぐ行動しよう!!

「水田中干しを1週間延長」して、温室効果ガスの発生を抑制します!!

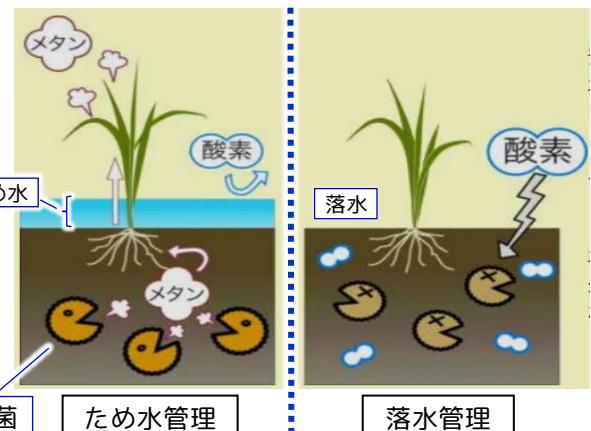
◆ Q1 : [温室効果ガス ($\text{CO}_2 \cdot \text{CH}_4$) がもたらす地球への影響って!?]

世界中でこれまで経験したことのない異常高温や干ばつ・豪雨・大型台風など、自然災害が頻発しています。こうした災害は、温室効果ガスによる地球温暖化が要因とされています。温室効果ガスは1990年と比較して50%も増加し、現在も増え続けています。このような気候変動問題に対し私たちが何も手を打たなければ、地球環境に取り返しのつかない深刻なダメージを与えるものと考えられています。

◆ Q2 : [なぜ、水田から温室効果ガス ($\text{CH}_4 = \text{メタンガス}$) が発生するの!?]

水田の土壌中には、メタンを作る微生物（メタン生成菌）が住んでいます。この生成菌は酸素が少ない条件を好み、水稻を育てるために水田に水を張る（湛水する）ことで土壌中の酸素が少なくなり、生成菌の活動が活性化し、多量のメタンが生成され大気中に放出されてしまいます。

一方、中干し（落水管理）を徹底・延長することで土壌中には、しっかり酸素が供給されます。これにより生成菌の活動が衰え、弱い中干しや常時湛水した圃場よりも長く中干ししたほ場（24日間=慣行17日間+7日間延長）では、メタンの発生量が約70%削減されます。



メタン生成菌

ため水管理

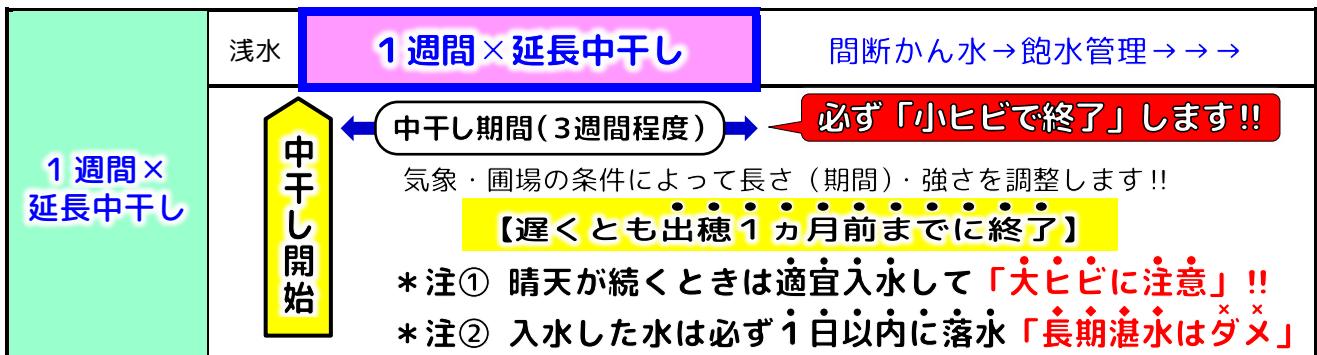
落水管理

★★★ 水田から発生する温室効果ガスを削減するためのキーワード ★★★

メタン生成菌をこらしめる → **土壤にしっかり酸素を供給する** = 「慣行中干しを1週間延長」

【図：「1週間×延長中干し」のイメージ】

月日	6/5	6/15	6/25	7/5	7/15	7/25
生育ステージ	有効分けつ期	→ 最高分けつ期		幼穂形成期	⇒⇒⇒⇒	出穂期
慣行中干し	浅水	中干し		間断かん水→飽水管理	→→→	



これまで取り組んできた中干しを「7日間延長するイメージ」で幼穂形成期前まで“延長中干し”に取り組みましょう!!

斑点米防止「カメムシ被害撲滅運動」実施中!!

第2弾!

6月10日(土) ~ 6月17日(土)

「第1回一斉草刈りウィーク」です!!

水稻栽培期間における農道・畦畔等の「雑草管理イメージ」



【重要】

カメムシ:「第1世代」のえさ・住みかとなる6月雑草を「しっかり除草」しましょう!!



ポイント



雑草「発生状況」に応じて除草します!!

① 草刈りウィーク

△6月10日→6月17日△

② 草刈りウィーク

△7月8日→7月15日△

重点的に除草する農道・畦畔雑草

- * メヒシバ
- * ナギナタガヤ
- ・スズメノカタビラ
- ・スズメノテッポウ

雑草種子を出穂・結実させない間隔で雑草管理を徹底します!!



強害イネ科雑草の代表格。草刈り後、根が残っているとわずか7日程度で穂をつける厄介者です。日当たりの良い所に多く、カメムシを最も見かける夏の草です。穂が実らないうちに除草しましょう!!



6月頃から穂をつけはじめるイネ科雑草。茎が柔らかく、草刈機では空振りして刈り残してしまいます。カメムシ類の第1世代が好んで吸汁し、産卵場所にもなります。

水稻栽培期間における「雑草管理のポイント」

- ① 農道・畦畔のイネ科雑草は、カメムシ類の生息・増殖場所となり、種子はカメムシのエサとなります。“雑草種子を出穂・結実させない間隔”で雑草管理を徹底します。
- ② 6月中旬と7月中旬の2回を地域一斉草刈りウィークとして雑草管理を徹底します。また、イネの出穂期や殺虫剤散布時期に応じてその前後にも追加除草します。
- ③ 本田内の取りこぼし雑草対策 (*特にホタルイ、ヒエ類等) も忘れずに!!

地域全体で雑草管理を徹底し、斑点米による格落ち「0(ゼロ)」を目指しましょう!!

